私たちの町の遺跡　二本木発掘物語

■第13話「清正と城下町建設」

室町時代まで肥後の中心として栄えた二本木ですが、加藤清正が肥後に入国し新たに城下町を建設すると、二本木は主役の座を譲ることになります。清正は二本木周辺をどのように位置づけたのでしょうか。ひとつの事例を紹介します。現在熊本駅の東側に白川と坪井川を分ける石塘と呼ばれる堤があり、坪井川に石塘堰が設けられています。これらは清正が築いたとされていますが、発掘調査によってこの石塘堰の近くから巨大な遺構が見つかりました。はじめ「池」と思って調査していましたが、東西の長さは75m以上、南北も40m以上あります。大きく蛇行し、部分的に石垣もみられます。池とするには不自然な形です。出土した遺物から江戸時代のはじめに造られたと考えられます。調査後いろいろ検討した結果、最初に水路として造られ、後に池として改変されたもののようです。石垣を築き蛇行させることで、水の勢いを弱めたのでしょう。造られた年代と土木工事の精密さから、清正の手による仕事と考えたくなります。清正による城下町建設の一旦が、垣間見えた気がしました。

このように二本木では、まだまだ未知なる歴史が眠っています。遺跡の発掘によりもっといろんな歴史が明らかになることは間違いありません。今後の動向に注目していて下さい。

熊本市文化振興課　林田和人氏

江戸時代、白川・坪井川・井芹川の川の流れ自体を変える大規模な土木工事ができたとは驚き！

平成24年12月　みにくま第116号に掲載